



四 気 折 々

川越町立川越中学校
「学校だより」第36号
令和5年12月19日
「認め合う・支え合う環境
づくり」人権学習の成果

2学期のいっぱいの成果から！日々の人権学習の積み重ねとして…

体育祭や文化祭はじめ人権学習、クラストーク。講演会。2学期には多くの「学びの場」がありました。

- ① 人権作文コンテスト表彰式・朗読会から見える川越中学校人権学習の成果。2名の人権作文が三泗地区で「最優秀作品賞」と「優秀作品賞」を受賞。そして「三重県奨励賞」も受賞しました。
- ② 川越町戦没者追悼式で、3年生1名が「戦争と平和について」人権作文を朗読してくれました。
- ③ 三重県PTA連合会主催「楽しい子育て全国キャンペーン 三行詩コンクール 三重県入賞として2名が受賞しました。
- ④ クラストキングで自分のこと、クラスのことなどを語り合う。自分のことを真剣に聴いてくれる仲間。

わかる・できた
と思える授業

生徒に寄り添う
生徒理解の充実

認め合う・支え
合う環境づくり

子どもたちが主体と
なる自治活動

心とからだの健康

『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みをすすめます。

川越中学校では令和5年度の「学校教育ビジョン」においても、『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みの中で、大切にしている1つの項目に「認め合う・支え合う環境づくり」・「心とからだの健康」があり、次の5つの具現化した「ねらい」があります。

『認め合う・支え合う環境』づくり ……具現化した「ねらい」

- ◆ 一人一人が安心して自分の想いを伝えることができる居場所づくり
- ◆ 生徒間交流ができる場の設定
- ◆ いじめ差別を許さない心の育成
- ◆ 自尊感情・自己肯定感の高揚
- ◆ 道徳教育とキャリア教育の推進

【子どもたちの活躍の場 「日々の人権学習の積み重ねの成果」】

① 『第41回全国中学生人権作文コンテスト三重県大会（四日市市・三重郡）』

■ 2年3組「山下芽生（やました めい）さん」が最優秀作品賞を受賞！

また、三重県奨励賞も併せて受賞をしました。おめでとうございます！

■ 3年2組「加藤縁羽（かとう よりは）さん」が優秀作品賞を受賞！をしました。おめでとうございます。

12月10日（日）四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われました。今年度の人権作文コンテストには三泗地区内のすべての中学校から、「3, 845編の人権作文」が応募され、9名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の9名の入賞者の中で、川越中学校からは2年山下芽生さん（最優秀作品賞）と、3年加藤縁羽さん（優秀作品賞）2名の生徒作品が入賞というすばらしい結果となりました。昨年度は川越中学校から6名のみなさんが受賞という結果をいただきました。



【人権作文最優秀作品賞受賞の表彰を受ける山下芽生さんと加藤縁羽さん】【人権作文の朗読をする山下芽生さん】

山下芽生さんの人権作文は、12月10日(日)の中日新聞朝刊【三重県版】に紹介があったように、三重県人権作文コンテストにおいて「奨励賞」も合わせて受賞をいたしました！心からおめでとうございます！また、表彰式と合わせて、自身が書いた人権作文を朗読する時間もありました。3年生の加藤さんは都合のため、表彰式のみ参加し「入賞作品の朗読」は川越町人権擁護委員の牧野さんに代読していただきました。

【2年3組 山下 芽生 さん 人権作文 「 障害者の姉として今、思うこと 」 から一部抜粋して】

今、私の学年ではクラス作りについて考えたり、仲間作りで人との関わり方を学び、毎日振返っています。学期始めと終わりにはクラストークキングをして、クラスを良くしていく取り組みをしています。みんな考え方は違いますが、話し合いをすることによって、お互いの気持ちを理解しあえると思います。学年の先生方からはよく、関わりを増やすように言われています。関わりが増えると、いろいろな人と仲良く出来たり、絆が深くなったりします。また、いじめも起こりにくくなります。一人一人の個性を大切に仲間作りをしていきたいです。このように考えていくと、私の弟もクラスの一員として過ごすことができるはずだと思います。

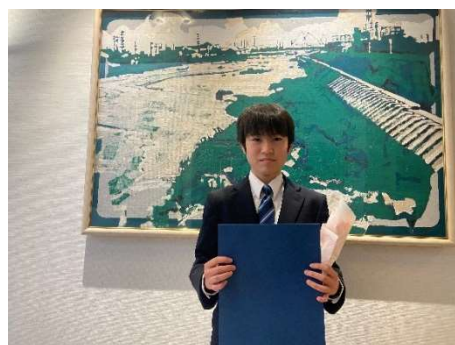
【3年2組 加藤 縁羽 さん 人権作文 「 勇気を出せたから 」 から一部抜粋して】

人権とは、人が心から笑って過ごせる権利だと私は思いますが、いじめはその人の大切な人権を奪います。後悔しなくていいように、傷つけられる人が減るように、勇気を出して信頼できる人に助けを求め続けたいと思います。

伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施してる大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等、LGBTにかかわること、そして今年度は戦争と人権について取り上げる人もいました。このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。本当に心に迫る素晴らしい作品がいっぱいでした。特に2・3年では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、その学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。今回の川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも嬉しいことでした。まだまだ

川越中学校には様々な課題があります。なかなか登校へ踏み出せない生徒、自分自身の将来に悩み考
える生徒、いじめ、自分の家族のことなど……。だからこそ、川越中学校では、これからも人権学習を大切
に進めていきます。人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これから「確かに生きる力」につな
がることを願って進めていきます。

② 4年ぶりに開催された『川越町戦没者追悼式』において3年1組「山北理孔
(やまきた りく)さん」が、川越中学校を代表して、人権作文を発表しました。



川越町では11月11日(土)あいあいホールで「戦没者追悼式」が行われ、遺族やその家族、関係者などが出席しました。また、今年は4年ぶりに非核平和都市宣言啓発事業として、8月に広島市の原爆ドームや平和記念資料館を訪れた、川越北小学校6年生3名の児童による体験発表と。人権作文として「戦争と平和」をテーマに想いや考えを綴った川越中学校3年生山北理孔さんの作文発表が行われました。

【3年1組 山北 理孔 さん 人権作文 「戦争と平和」 から一部抜粋】

僕は戦争のない平和な日本に生まれ、ご飯を毎日食べ、明日に向けて寝て、欲しい物も手にすることができる、そんな生活を送ってきました。しかし、世界中の人がみんな、このような暮らしをできるわけではありません。毎日、生きるためにどこかで働く子もいれば、爆撃に怯え、どこかに隠れながら生活している人だっています。その人達はみんな、毎日生きることに必死で、それだけで精いっぱいです。僕は、今の普通の生活を当たり前でできていることが、どれほど幸せなのかを実感しました。原爆を落とされた同じ国の人である以上、後世に戦争の悲惨さを伝えていかなければならないと思います。そうすることで、命の大切さを考え、人権というものが守られていくのだと思います。

「人権」とは、人がみな生まれながらに等しく自由で、他人にゆずりわたしたり、侵されたりすることのない権利であって、生きることが当たり前になっています。また、日本国憲法第二十五条では、生存権について定めていて、このような権利を理不尽に奪う戦争は、人権侵害の一つだと思いました。

これからの時代、戦争が起こることがない時代にしていかなければいけません。そのために自分たちができることを考えました。それは、戦争のことを次の世代へと語り継いでいくことです。一人ひとりが過去や今起きている悲惨な状況を知り、何か国同士でのいさかいがあっても平和に解決していくことが大切だと思います。

③ 三重県PTA 連合会主催『楽しい子育て全国キャンペーン』三行誌コンクール
川越中学校で毎年継続して取り組んでいる「三行誌」。この三行誌には、「家族の絆」を中心に、普段なかなか言えない家族への感謝の想い等を三行誌に表現。自分の素直な想いを言葉にする。これも人権学習につながる川越中学校で大切にしている取り組みです。

■ 1年1組「中村 梨乃(なかむら りの)さん」の三行誌が



「三重県PTA 連合会会長賞」を受賞！

「県P 会長賞を受賞」した中村さんの三行誌。

『毎朝お母さんが言ってくれる

「いってらっしゃい」の一言は

私にがんばる力をくれる愛言葉』

■ 2年1組「杉野 蒼真（すぎのそ うま）さん」の三行誌が三重県「入賞」！



「入賞」をした杉野さんの三行誌。

『 父さん、試合の応援ありがとう。いそがしい中
ありがとう。「こなくていい」といっているけど
本当はうれしいよ。 』

■ 1年4組「石原 千愛（いしはら ゆきな）さん」が三行誌で三重県「入賞」！

「入賞」をした石原さんの三行誌：

『 家に帰ると いつの間にか忘れていた 嫌なこと 』

④ すべての学年で大切にしている「クラストキング」。その振り返りから。

【1年生生徒より】

クラストキングを終えて、みんなの意見を聞いて、不安な気持ちもあるなと思いました。最初の自分の考えは、困ったことがあったら、周りの人が助けてくれます。しかし、他の人の意見を聞いて、困ったことがあったら、みんなに言えない人もいたのを知りました。だから、誰もが安心できるクラスではないなと思いました。良い雰囲気をつくったら、今まで安心できていない人も安心できるようになるかなと思っています。私は学校で安心してすごすことができます。自分で発表時にも言いましたが、「間違っても大丈夫だ」、
「不安や悩みを受けとめてくれる人がいると感じました。」

【2年生生徒より】

今の学級を例えると「豆腐と納豆の間だけど、少し豆腐寄り」。
大豆と豆腐と納豆の学級を絵にまとめてみました。
<大豆の学級>・・・みんなが散らばっていて、関わっていない。
<豆腐の学級>・・・はじめは1つにまとまっているけど、
写真のように、何個かのグループになってしまい、関わりが少
ししかできない。
<納豆の学級>・・・ひとつの部屋にまとまっている。箸でつ
かんでも、みんなまとまっていて関わりが深い。



【2年生生徒より】

今日のクラストキングをどう感じたかは人によるけど、そこから協力をしていこうと思ってくれる人が多ければ多いほど、話しやすい空気になります。

今日のクラストキングで、クラスのために日頃、頑張ろうとしている人がたくさんいました。自分もクラスに貢献できるようになりたいです。



「誰もが」安心できる学級にするために。そして「すべてが学びの場として」。